

花巻市 博物館だより

HANAMAKI
CITY MUSEUM



No.73

2024.8

目次

- ▶ P 1特別展「アニメージュとジブリ展」花巻市博物館展 ▶ P 2-3特別展「縄文ワールド—写真家 小川忠博の世界—」
- ▶ P 4-5特別展「アニメージュとジブリ展」花巻市博物館展 ▶ P 6活動レポート
- ▶ P 7館長コラム・インフォメーション ▶ P 8花博コレクション



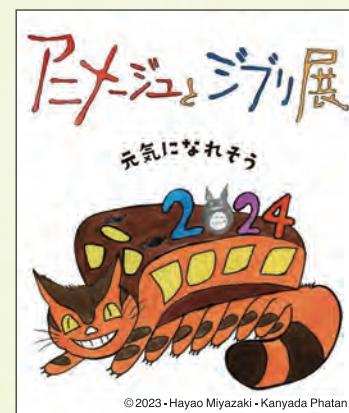
エントランス：ネコバス（フォトロケーション）

花巻市博物館開館20周年記念特別展

「アニメージュとジブリ展」花巻市博物館展 好評開催中!!

花巻市博物館では、7月20日(土)から9月23日(月振)まで開館20周年記念特別展「アニメージュとジブリ展」花巻市博物館展を開催しています。

本展は、日本初の本格的商業アニメ雑誌である「アニメージュ」(徳間書店)の1978年創刊当時から80年代に焦点を当てながらスタジオジブリの原点を振り返る展覧会です。



© 2023 - Hayao Miyazaki - Kanyada Phatan



花巻市博物館HP



Facebook



Instagram

花巻市博物館開館20周年特別展

縄文ワールド – 写真家・小川忠博の世界 –

期間：令和6年10月19日(土)～令和7年1月13日(月祝)

写真家・小川忠博氏（1942年－）は、雑誌の写真取材のかたわら、40年近く全国各地で数々の縄文写真を撮り続けてきました。縄文土器の周囲360度の文様を一画面におさめた「展開写真」を代表とする小川氏が写し出した縄文の世界は、日本の考古学のみならず美術研究に新たな視点をもたらしました。さらに、写真集『縄文美術館』『土偶美術館』などの書籍となり、私たちに土器や土偶を生み出した縄文人の生活・社会の姿を生き生きと見せています。

本展では、小川氏の縄文写真コレクションから最新作を含む厳選した作品と、岩手県内の出土品を合わせて展示します。学術調査・研究や標本写真とは違う視点で撮影された縄文の多彩で力強く、創造力あふれる表現と造形美をご堪能下さい。



土器（山梨県一の沢遺跡 国指定重要文化財）
山梨県立考古博物館所蔵



土偶（長野県棚畠遺跡 国宝）茅野市尖石縄文考古館所蔵

【展示構成】

プロローグ. ようこそ縄文ワールドへ

厳選した逸品の縄文写真を紹介し、縄文の世界へといざないます。

1. 縄文の歩み

縄文時代の概要を、遺跡や遺構、土器や石器などの縄文的生活必需品の写真や実物資料を交えて紹介します。

2. 土偶の誕生と変遷

縄文時代の出土品には土器や石器など様々ありますが、その中でも現代人の心を最もくすぐるのは土偶ではないでしょうか。土偶の誕生から時期による変遷を全国各地の遺跡から出土した土偶写真によりたどります。

3. 土偶の顔と装い

土偶の顔に着目すると、笑顔や驚いているような様々な表情が見えてきます。小川氏の視点で写し出された土偶の豊かな表情を展示します。さら



展開写真 展示風景（於 山梨県立美術館 2022年）

に、髪型や衣服、耳飾りなどの装飾品の写真を展示し、縄文人の装いについても紹介します。

4. 動きのある土偶と多彩な表現

土偶は「ひとがた」であるために「静」の印象があるかもしれません。しかし、小川氏の写真を通して見えてきたのは躍动感のある土偶たちです。両手を上げたり広げたりしている土偶、肩をいからせて構えるような姿勢をした土偶、踊っているような姿やしゃがむ姿、さらには出産の姿を表現したものなど様々です。そのほか、岩石や動物の角などの素材で作られた多彩な造形についても紹介します。



土偶（青森県近野遺跡）青森県埋蔵文化財調査センター所蔵

5. 優美な土器と展開写真

縄文土器は時期や地域によって異なる形状や文様などの装飾が施されています。特に文様は、縄文土器の時期や地域を知る手がかりになっています。この縄文土器研究において新視点をもたらしたのが小川氏の「展開写真」です。小川氏はスリットカメラを開発し、縄文土器の周囲360度を一画面におさめ、土器の文様を展開写真として撮影す

ることに成功しました。これにより文様に新しい解釈が生まれるなど、日本の考古学はもとより美術研究にも大きな影響を与えました。岩手県内や各地の特色ある縄文土器を展開写真で紹介します。

6. 国宝・国指定重要文化財の土偶

国宝土偶の全5体と国指定重要文化財の遮光器土偶、みみずく土偶、ハート形土偶の写真を展示します。

7. 動物の表現

狩猟の様子を文様に取り入れた「狩猟文土器」の展開写真、イノシシやクマなどの動物の表現が施された土器や土製品の写真を実物資料とともに展示します。

エピローグ. 岩手の縄文ワールド

岩手県内遺跡出土品の写真と実物資料を展示し、岩手の縄文世界を紹介します。

※掲載写真の撮影は全て小川忠博氏

(学芸員 高橋 静歩)

◆関連イベント

①Specialギャラリートーク

講 師：小川忠博氏（写真家）
日 時：10月19日(土)13時30分～15時
場 所：講座体験学習室、企画展示室
定 員：50名（要申込）

②記念講演会

講 師：原田昌幸氏
(國學院大學兼任講師・元文化
庁主任文化財調査官)
日 時：11月24日(日)13時30分～15時
場 所：講座体験学習室
定 員：50名（要申込）

アニメージュとジブリ展

会期：開催中～9月23日(月振)

スタジオジブリの原点を振り返る“展覧会”その見どころの一部をご紹介します。

1 「機動戦士ガンダム」とアニメブーム

1970年代の後半に始まり80年代に最高潮を迎えたアニメブーム。その初期を中心で支えたのは「宇宙戦艦ヤマト」と「機動戦士ガンダム」の2作品です。日本初の本格的アニメーション専門誌「アニメージュ」はこういったアニメブームの盛り上がりの中で生まれ、ブームを後押しするのに大きな役割を果たしました。本コーナーでは、「アニメージュ」でも大きく取り上げていた「機動戦士ガンダム」から多くの貴重な資料を展示します。特に、美術監督の中村光毅さんの美術ボードやイラストは圧巻の素晴らしさです。また、「アニメージュ」が主催したコンテスト「アニメグランプリ」の解説コーナーでは、「ガンダム」を生んだ富野由悠季総監督からのメッセージビデオも見ることができます。



「機動戦士ガンダム」
©創通・サンライズ

2 「ルパン三世カリオストロの城」

今も新作が作り続けられている「ルパン三世」は、アニメブームの時期から大きな存在感がある作品でした。後半に高畑勲・宮崎駿両監督が参加した「旧ルパン」と呼ばれる最初のテレビシリーズ（1971）は、再放送を通じて人気が高まり、その人気を受けて1977年から新作シリーズ、通称「新ルパン」の放送が始まることがあります。「アニメージュ」は、「ルパンシリーズ」特に宮崎駿監督が映画初監督に挑戦した劇場版「ルパン三世カリオストロの城」（1979）に大注目し、作画監督を務めた大塚康生さんの仕事を含めて、何度も誌面で特集しました。宮崎監督の手によるイメージボードや絵コンテなどの展示に加え、ここでは、映画冒頭のカーチェイスシーンの映像にご注



1979年11月号表紙用セル画
「ルパン三世カリオストロの城」
原作：モンキーパンチ ©TMS

雑誌「アニメージュ」とは…

1978年に創刊した日本初の本格的商業アニメ雑誌・月刊「アニメージュ」。アニメ雑誌のパイオニアとして、それまで作品の裏方として脚光を浴びることのなかった業界内部、作家や制作に関わる人をクローズアップしてきました。「風の谷のナウシカ」のアニメーション映画化でスタジオジブリ設立のきっかけとなった本誌は、創刊46年を迎えた今もアニメとファンをつなぐ橋渡し役です。



目ください。これは、色を塗った完成映像ではなく、アニメーターが鉛筆で描いた元の動画そのものを撮影して本展のために作った映像です。

また、宮崎駿監督が翌年照樹務名義で演出した「新ルパン」の145話と最終話155話で、監督自らが描いた貴重な原画とレイアウト修正もご覧いただけます。

3 「風の谷のナウシカ」マンガ原稿と名シーンのセル画に注目

アニメブームが過熱する中、「アニメージュ」の編集部では、自らの手でアニメーション映画を作ろうという機運が盛り上がります。「アニメージュ」が注目していた宮崎駿監督に連載漫画の執筆を依頼、これが「風の谷のナウシカ」です。その後、高畑監督にプロデューサーをお願いし、トップクラフトにアニメ制作を委託する形で宮崎駿監督作品「風の谷のナウシカ」映画化への道が始まりました。ここでは、「ナウシカ」のマンガ原稿や映画化にまつわる資料、グッズを大量に展示しています。当時の「アニメージュ」の誌面で展開した「風の谷七人衆」の資料など、当時、雑誌とその読者及びアニメ制作・興業とが一体となってブームを盛り上げていった様を感じ取ってもらえる展示となっています。また、今ではなかなか目にすることがない、「背景画」、「セル画」の現物展示も見逃せません。

4 今も愛され続けるナウシカ

すべての生きとし生けるものを隔てなく愛し守ったヒロイン・ナウシカは、登場から圧倒的な人気を得てきました。その存在は、時代が変遷し、人の多様性が尊ばれ、また世界環境の危機が語られるようになった現代に至り、より光を放つようになってきています。このコーナーでは、造形作家・竹谷隆之氏による「風使いの腐海装束」とジオラ



「風の谷のナウシカ」風使いの腐海装束

マ「朽ちゆく巨神兵」、そして秋田県大館市にある映画館「御成座」で2020年にリバイバル上映された際に新しく描かれた絵看板を展示します。ナウシカは、今多くの人に愛され、またその先進性と奥深い世界観がクリエーターの創作意欲もかきたて続けているのです。

5 「天空の城ラピュタ」とスタジオジブリの誕生

「風の谷のナウシカ」のヒットにより、「アニメージュ」は新たな宮崎駿監督作品の制作に取り組みます。そのため1985年に作られた新しいアニメスタジオが「スタジオジブリ」です。東京・吉祥寺にあった当時の雰囲気を伝える写真を今回特別に多数展示します。また、「ラピュタ」制作に先立って、宮崎駿監督がマクセルのカセットテープのCM用にデザインした飛行艇の撮影用模型実物の展示も見逃せません。世界観の共通性がうかがえる非常に貴重なものです。「ラピュタ」については、宮崎監督の直筆の原画を多数展示しています。パズーやシータの精細な表情を本人の筆



「天空の城ラピュタ」ジオラマ

致で知ることができます。そして、展示の最後を飾るのが「ラピュタ」そのものの立体造形物です。ロボット兵のいる裏庭まで細かく再現されており、必見です。パズーとシータの乗る凧も飛んでいますのでぜひ探してみてください。

「アニメージュとジブリ展」
花巻市博物館では多数の関連イベントをご用意しております。詳細につきましては公式サイトをご覧ください。



公式サイト

※本展会期中の開館時間は9:00～18:00(最終入場17:30)です。通常の開館時間と異なりますのでご注意ください。

活動レポート

楽しく活動！GW体験講座

花巻市博物館では、5月3日(金)から5月5日(日)の3日間、3種類のワークショップ体験活動を行いました。その様子を簡単にご紹介します。

① 勾玉つくり体験

日 時：5月3日(金) 13:30～15:00

参加者：22名

講座室で勾玉の説明を聞き、常設展示室で実物の勾玉を見学することで、古代人の感覚に触れてもらいました。



勾玉の実物を見学

講座室に戻り体験開始。形を作るための削る作業が大変でしたが、大人も子どもも



削って形を作る

最後まで集中してがんばりました。完成了勾玉を首にかけたときには満足した表情を浮かべていました。

③ 縄文弓矢・火起こし体験

日 時：5月5日(日) 13:30～15:00

参加者：38名

火起こしと弓矢の2つのグループに分けて交代する形にしました。展示室で弓矢の進化などの話を聞いてから外に出て、体験スタートです。



縄文弓矢の説明

縄文弓矢体験は、全員がルールをしっかりと守り、安全に楽しく矢を射て的に当てる体験ができました。特にこの日はとても暑かったのですが、小さなお子さんもがんばって何度もチャレンジして、少しづつ上手になっていきました。

また、火起こし体験は、「まいきり」という、火を起こすための道具を動かして種火を作り、それを燃えやすい材料のものにつけるところまでの体験になります。

そもそも「まいきり」を扱うことは非常に難しいので、簡単には火をつけられないと最初に伝えました。そのため、芸員が見本で火をつけたときには大きな拍手が起きましたし、参加者が火をつけたときにも、周囲からたくさんの拍手が自然に起きました。



火のおこし方の見本(火がついた瞬間→拍手)



協力して火おこし中

気温は暑くて大変でしたが、協力し合って心が温かくなる体験になりました。

② ぬり絵掛軸つくり体験

日 時：5月4日(土) 13:30～15:00

参加者：4名

講座室で掛軸の説明を聞いたあと、本物の魅力に触れるため、企画展示室で花巻の三画人の掛軸を見学しました。



展示室の本物の掛軸を見学

講座室に戻り描きたい図柄を選択したら体験開始です。見本を参考にしながらも、自分



なりの感覚で、集中して着色体験をしていました。

数種類を素早く描いた人も、時間をかけて1枚を仕上げた人も、楽しく体験できました。

色鉛筆やペンで思うままに着色

館長 コラム

「驀直去」という 石碑

花巻市矢沢地区の襲輪(ほろわ)という所の道の分かれに、「驀直去」と彫られた石碑が建っている。以前、この道を通った時、自然石に深く彫り込まれた三文字に目を惹かれたのだが、車を止めて調べることまではしなかった。しかし、最近になって石碑のことを思い出し、改めて詳しく調べてみることにした。

「驀直去」は、禪宗の教えに関係した言葉で、「まくじきこ」「ばくじきこ」あるいは「まくじきにされ」などと読むという。この言葉で最も有名な逸話は、NHKの大河ドラマで注目された鎌倉時代まで遡る。鎌倉時代の終わり頃に蒙古の襲来があり、当時の執権であった若き北条時宗が対応に悩んでいると、中国から渡來した無学祖元(むがく・そげん)という僧が、時宗に向かって「驀直去(まくじきにされ)」と一言告げたという。これは、「あれこれ思い迷わず、一度決めたら、ひたすら前を向いてやれ」という意味で、それを理解した時宗は、見事蒙古軍を撃退したと

伝えられている。詳しくは行徳哲男著『感奮語録』(致知出版社)を御覧頂きたい。

それでは、「なぜ、だれ」が石碑をここに建てたのか。襲輪周辺の家々の聞き取り調査では全くわからなかった。中には、題字に「馬」と「去」の字があるため、ここから先の峠道は馬を下りて行け、という意味だと解釈していた人もいた。

ところが、コケと土埃で覆われていて、一見すると何も書かれていないように見えた石碑の背面に、実はびっしりと文字が刻まれていたのである。碑文には、矢沢村襲輪の川村健二という人が、当時の矢沢村から東和町安俵及び北成島・毘沙門方面へ抜ける二本の道路の改修整備を訴え、地域の人々の反対や家族の不幸を乗り越えて、終始一貫して働きかけたことにより、両道路の改修が行われたことを記していた。この碑文の最後には、「其の誠意・尽力、実際に謁すべき奇跡也」と功績をたたえている。

「驀直去」の石碑は、道路開通記念として矢沢村が建立したもので、幾多の困難を乗り越えて、ひたすら道路の改修を訴えて突き進んだ、川村氏に贈られた賛辞であるとともに、人間のあるべき規範について示したものであった。

令和6年8月～11月の行事予定

【企画展示室】

●開館20周年記念特別展

「アニメージュとジブリ展」花巻市博物館展
会期:～9月23日(月・振)

●開館20周年記念特別展

「縄文ワールドー写真家 小川忠博の世界ー」
会期:10月19日(土)～1月13日(月・祝)

【ワークショップ】

◆鍛冶丁焼つくり

日 時:10月20日(日)13:30～15:00
定 員:15名 ※要申込
費 用:1,500円
※9月20日(金)より受付を開始します。

◆台焼つくり

日 時:11月17日(日)
定 員:15名 ※要申込
費 用:1,500円
※10月17日(木)より受付を開始します。

【講 座】

◆館長講座-2 「縄文時代の『はなまき』」

日 時:10月27日(日)13:30～15:00
定 員:30名 ※要申込
費 用:無料
会 場:花巻市博物館 講座体験学習室
※9月27日(金)より受付を開始します。

※特別展「縄文ワールドー写真家 小川忠博の世界ー」関連事業につきましては、P3をご覧ください。

※ワークショップ、講座ともに詳細につきましては、博物館へお問い合わせください。

ワークショップの申し込みはこちら↓



鍛冶丁焼



台焼



館長講座

【休館のお知らせ】

資料整理のため、9月30日から10月6日までの7日間休館します。ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほど何卒よろしくお願いいたします。

花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松第26地割8番地1
電話:0198-32-1030 FAX:0198-32-1050
開館時間:午前8時30分から午後4時30分まで
休館日:12月28日から1月1日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学生	250(200)円
	一般	350(300)円

※()内は20名以上の団体割引料金です。
※割安な近隣4館共通券もあります。
※特別展示を行う場合、別に入館料を定める場合があります。

URL:<https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/1008981/index.html>

交通案内

◆バス

新花巻駅→賢治記念館口
コミュニティバス 土沢線
イトヨーカドー行…約5分
花巻駅→賢治記念館口
コミュニティバス 土沢線
土沢駅行…約20分

◆車

花巻空港ICより…約10分

◆徒歩

新花巻駅より…約25分



HANAHAKU

花博コレクション

COLLECTION



寺島貞志 (1905~1983) 「馬」—日本の風土を感じる農村風景—

制作年不詳 / 油彩・画布 / 館蔵

寺島貞志（本名 寺島貞志郎）は16歳の時に写真家渕上白陽の門下に入り、写真集、雑誌編集のかたわら絵を描き、20歳の1925年に美術雑誌『造形』を発行。その後パリとモスクワで絵を学び、プロレタリア美術展などに出品し、1929年モスクワからパリに渡り、翌年再びモスクワに行き、帰国。戦争が始まり、1945年に妻の郷里である花巻へ疎開すると、周囲の農村を訪ねてその風景やそこに働く人々を描きました。

この作品は、のどかな農村の風景に佇む馬の姿が力強いタッチで描かれており、農村の明るさや馬の生命力が感じられます。寺島は「東北のいなか町花巻に移り住んで、田園の風物を取材しひたすら日本的なものを求めてまいりました。」(個展目録より)との言葉を残しており、日本的なものを追いかけて先に行きついたのは、日本の風土やそれに根ざした生活の残る東北の農村だったのでしょう。この作品からも、日本の風土が感じられる農村の風景を、馬や草木の瑞々しい色彩から感じすることができます。

(学芸調査員 藤原希海)